

令和 4 年 11 月 21 日

文教産業常任委員会

委員長 早川 文乃 様

文教産業常任委員 西 村 良 一

文教産業常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 4 年 11 月 15 日（火）

愛媛県西条市 「小中学校 ICT 教育推進事業について」
「アウトドア活動促進による地域活性化に向けた取り組みについて」

11 月 16 日（水）

愛媛県松山市 「地産地消促進計画について」
愛媛県大洲市 「観光まちづくり戦略ビジョン、観光まちづくり町家活用エリア実施計画について」

11 月 17 日（木）

楽天農業株式会社 「大洲冷凍工場見学および事業説明」

2. 視察参加名簿

委員長	早川	文乃
副委員長	米弥	又由
委員	重廣	正美
委員	重村	法弘
委員	岩藤	睦子
委員	有田	茂
委員	田村	大治郎
委員	西村	良一
委員	松岡	秀樹

以上 9 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	愛媛県西条市			
視察日時	令和4年11月15日 13:30～15:30			
視察項目	小中学校 ICT 教育推進事業について アウトドア活動促進による地域活性化に向けた取り組みについて			
対応部署名	教育委員会、産業経済部観光振興課			
自治体概要	面 積	510.04 km ²	人口 (令和4年9月末)	105,966 人
	一般会計	493 億円	世帯数	50,781
	議員定数	28 人		
	人口は自然動態により減少し少子高齢化が著しく進んでいる。産業は農業が全体に対して 7.5%ですが、工業のほうは造船業を中心として年間 8,500 億円の売上をあげて、四国最大級の産業都市として飛躍的な発展を遂げている。			
視察内容				
小学校、中学校では ICT 教育の向上を図り、タブレットを生徒及び教職員一人ひとり（約 9,000 台）に持たせて教育推進している。大型電子黒板を教室 3 方に配し、先生・生徒を写し ICT を活用した学習をしている。（ギガスクール構想） アウトドアレジャーについては石鎚山（1,982m）を中心とし、株式会社モンベルとアウトドア活動等の促進を通じた地域活性化に向けた包括連携協定を締結して地域に発展のために活動している。総事業費 4 億 3 千万円をかけビジターセンター、アウトドア用品売り場、農産物市場、おあしす市場を整備して、売上及び就業者の向上をめざす。				
所 感				
石鎚山のふもとで風向明媚な所。盆地なので湧き水が豊かで上水道がタダで、造り酒屋が 5 軒も有り。アウトドアレジャーが豊かな所、海あり山あり川あり、素晴らしい財産だと思います。 教育も熱心で IoT を利用し先進的なことを行っていました。そんな良い所でも人口が減るというのはやはり日本全国の共通問題のような気がします。				

(別紙)

視察先	愛媛県松山市			
視察日時	令和 4 年 11 月 16 日 9 : 00～10 : 30			
視察項目	地産地消促進計画について			
対応部署名	農水振興課			
自治体概要	面 積	429.40 km ²	人口 (令和4年10月1日)	504,509 人
	一般会計	2,000 億円	世帯数	239,436
	議員定数	43 人		
	400 年以上の歴史ある松山城のお膝元には豊かな名湯があり、愛媛県の人口 130 万人の内、38%にあたる 504,509 人が松山市に住んで名実ともに愛媛の中心である。有形無形の地域産業を活かし観光や工業が盛んな所。第 3 次産業の人口が 76%を占めている。観光客も年間 615 万人あり、事業所は 23,291 戸あり、従業員数は 236,000 人いる。			
視察内容				
地産地消推進計画の内容、観光やビジネスで来訪される方々と併せて広く市内の食材の消費をめざす。生産については農地や漁場保全に対する整備、認定農業者に対する支援、水田での転作に対する支援を行い、消費については流通量の増加、消費拡大をめざす。 地域の産直市への生産者紹介、青果や鮮魚の化学物質検査、まつやま農林水産物ブランド製品に対する加工品開発支援を行う。 地元産の農林水産物のふれあって知って食べて学ぶ機会を増やす食育との一体的推進、松山市産の食育推進計画を強化する。 学校給食で地元食材を使用する日の実施。				
所 感				
トップセールス市長の園地視察を行い、まつやまブランド品に認定し東京大田市場で売り込み、生産現場での写真やイラストを用いながら説明通算 25 回実施とのこと。ブランド品は現在 10 品目あり。ブランド品を活用した加工品の開発、ながとラボのようで、紅まどか（みかん）・せとか（みかん）を使ったハンドソープ・ハンドクリームなど食品以外の物も開発していた。その事業の後押しである補助金を出す。さらにはウェブサイトや SNS を活用した情報発信をしている。 マスコミも利用し、朝のめざましテレビの撮影にも出し、PR しているとのこと。売り込みの熱意の高さが見える。				

(別紙)

視察先	愛媛県大洲市			
視察日時	令和 4 年 11 月 16 日 13 : 30～15 : 00			
視察項目	観光まちづくり戦略ビジョン、観光まちづくり町家活用エリア実施計画について			
対応部署名	観光まちづくり課			
自治体概要	面 積	432.12 km ²	人口 (令和4年10月末日)	40,667 人
	一般会計	300 億円	議員定数	21 人
	四国佐田岬の根元あたりに位置し肱川全長 100 kmが育んだ県下有数の農業として発展してきた町。農産物を活かした 6 次産業化に取り組んでいる。観光は大洲城を中心とし古い街づくり・古い家を改装し観光の目玉としている。			
視察内容				
大洲城をホテルとした一泊 110 万円（2 名）の企画が、これまでに 8 組泊まってくれている。要望に合わせたテラーメイドのプログラム造成により 8 組の平均単価は約 160 万円とのこと。来年度もすでに予約有り。 古民家再生事業を行い、古い蔵・民家を再生しホテル・食事処・店舗などに活用し街歩きのコースとしている。電柱を無くし、歴史文化が織りなす美しい景観や大洲城の羨望などの向上を図るとともに住民・来訪者の安全を確保すること。 民間建築物ファサード整備補助事業景観計画区域内の建物の外観改修、新築などに補助金を交付する。				
所 感				
職員の方の説明を受けながら街を歩いてみたがとても古い建物が多く改修され残っていた。大きな蔵の大きな合掌、大きな張りなどは見ごたえあるものでした。 城のほうは一泊 110 万円とし NO1 に欧米豪の知的旅行者とし、NO2 に香港台湾の知的旅行者とし、NO3 に NO1 ターゲットに感化された日本人旅行者をねらいとしているとのこと。単価が高いのと珍しいので、インバウンド市場としては良いのではないかと思います。 古い街並みも地域の宝となるものです。昭和村、どこか江戸村に近いものです。				

(別紙)

視察先	楽天農業株式会社			
視察日時	令和４年 11 月 17 日　10：00～12：00			
視察項目	大洲冷凍工場見学および事業説明			
対応部署名	代表取締役　遠藤　忍様、社長室、農業事業部			
会社概要	資本金	3,200 万円	従業員数	124 名
	本社	愛媛県大洲市	設立	2007 年 3 月
	代表取締役	遠藤忍		
	■事業内容			
	・オーガニック農家の独立支援 ・オーガニック野菜の栽培加工販売			
会社概要	■農地拠点			
	・静岡県（御殿場伊長）広島県（神石） 山口県（長門・下関）愛媛県（伊予・大洲）			
視察内容				
本社工場内のカット野菜の製造工程とパック詰め作業と工場回り（冷蔵庫）を見学しその後社長の説明を受ける。工場内に入る時は長靴・防じん服マスク・帽子（二重）を装着、手洗いをし、ゴミ・髪の毛が入らないようにした。 オーガニック農家を育て独立できるよう、生産した野菜を買い取り加工してオーガニック（有機）野菜として販売する全国展開。 耕作放棄地を借りて畑にすると、その土地を農家に貸し独立してもらおう全国で 130 町程度を展開予定。				
所　　感				
とにかく元気のある会社・社長さんでした。荒れた土地、セイタカワダチ草（水はけの良い土地）を見ると宝に見えるとか。 日本中の荒れた土地を整備しオーガニック栽培にすることで CO2 を出さない環境作り、新規就農者を増やしたい、人材育成、資金を支援、生産野菜の全量買取支援（規格で苦しむ新規就農者をオーガニックの冷凍工場、カットサラダ工場で 365 日買い支える）「みどりの食料システム戦略」と称して新たな脱炭素の観点からの有機農業の推進を夢見ているとのこと。頑張っていてほしいと思います。				